

技術情報カード

No.30

平成13年10月



●●●●●
技術情報カード No.30
平成13年10月

徳島県立農林水産総合技術センター
森林林業研究所

〒770-0045
徳島市南庄町5丁目69
TEL 088-632-4237
FAX 088-632-6447



大苗造林による獣害軽減効果

はじめに

現在、県南部を中心にニホンジカによるスギ・ヒノキ苗木への食害が大変問題となっています。本県で一般的なシカから苗木を防護する方法としては、防護柵や防護チューブなどの物理的防護法や忌避剤散布などの化学的防除法が挙げられますが、経費や手間がかなりかかります。

そこで今回は、施業方法を検討することによりシカ被害を軽減させる方法を試みました。具体的には、既に樹高が180cm程度まで成長している大苗を新植する施業方法です。

これにより、シカによる食害の影響を最小限に止め、かつ、下刈を省略することができれば、経費の節減にもつながります。今回は、大苗造林の現在までの結果について、報告します。

1 平成12年度の試験方法

平成12年3月に、勝浦郡上勝町に61本（平均樹高186.7cm；平均地際直径33.6cm）、海部郡宍喰町に30本（平均樹高166cm；平均地際直径26.6cm）、ヒノキの大苗を植栽しました。

上勝町の大苗のうち、40本にはポリオレフィン

素材の不織布（「ザバーン 樹皮ガード」東工コーセン（株）販売；以下「不織布」という）を写真-1のように樹幹周囲に蛇腹状に設置し、シカによる皮剥を防止するようにしました。



写真-1 不織布を蛇腹状に樹幹に巻いたヒノキの大苗(上勝町)

2 平成12年度の結果

植栽後における、シカによる大苗に対する枝葉や皮剥の最高被害高の結果が図-1及び図-2です。

宍喰町の30本は、皮剥防止対策を何も施さなかったため、木部が露出するまで皮が剥がされてしまい、26本が枯死・半枯死となりました。上勝町の不織布を設置していない大苗も同様でした。しかし、不織布を設置した上勝町の40本についての皮剥は、不織布上部のごく小面積の甘皮を摂食した程度でした。

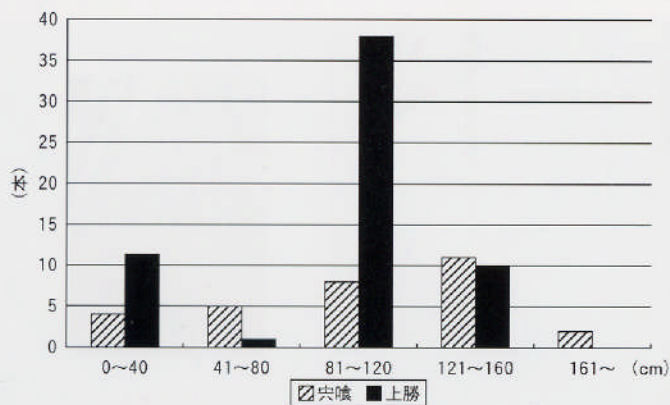


図-1 枝葉食害の最高地点 (H12)

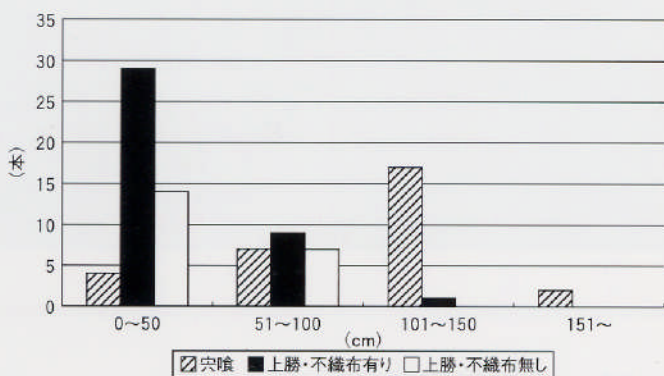


図-2 皮剥の最高地点 (H12)

3 平成13年度の試験方法



写真-2 不織布を樹幹に巻き付けたヒノキの大苗 (宍喰町)

3月に、全滅に近い宍喰町の試験地に、今度は樹高平均120cmのヒノキ大苗を、写真-2のように不織布を樹幹に巻き付けるように設置し、改めて被害調査を行っています。上勝町については、平成12年植栽の大苗を継続して調査しています。

4 現在までの結果

宍喰町の新しい大苗については、これまでの調査結果では、枝葉や梢端部に対する食害は多少あるものの、皮剥は不織布を巻いた際にできた幅2、3cmの隙間の甘皮を食べられた程度で、現在のところは不織布によって皮剥が防止されています。

上勝町の大苗については、写真-3のように、シカは樹幹周囲に巻いた不織布を壊して、木部まで樹皮を剥いでしまったものがありました。また、不織布を外さなくても、蛇腹状に設置したため、樹幹と

不織布の間に隙間ができてしまい、不織布はそのままでも内部は皮が剥がされていますものも多くありました。不織布の設置方法としては、写真-1のような樹幹周囲を蛇腹状に囲う方法は適さないと考えられます。



写真-3 シカに不織布を外されたヒノキの大苗 (上勝町)

5 大苗造林の問題点

問題点としては、

- ・ 重量が大きく、道路際ならば人肩でも運搬できるが、基本的には架線等での運搬になる
- ・ 何らかの皮剥防護対策を要する
- ・ 大苗の供給体制が確立されていない (試験苗は県森連から調達)
- ・ 苗木が1本約500円する (樹高120cm) ということが挙げられます。しかし、供給体制と価格については、需要が多くなれば、改善されると思います。

おわりに

シカ被害防護対策の主流である防護柵は経費が高く、忌避剤は忌避効果の持続期間が短いなど、シカ被害防護法の決定的な方法というものは現在のところ開発されていません。また、現在の木材不況の下では、防護対策に多額の投資を行うことができる林家もごく少数だと思います。

このようなことから、低コスト化とシカ被害軽減の可能性のある大苗の造林を検討していくことが必要ではないかと考えます。

◆内容に関するお問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術センター
森林林業研究所 森林環境担当 堺 俊彰
TEL 088-632-4237 FAX 088-632-6447